

徳島県総合計画審議会計画推進評価部会報告

- 1 開催日時 平成18年7月10日(月) 13:30~15:30
- 2 いただいたご意見の概要

(1) オンリーワン徳島行動計画全体について

実績値の出た指標の約9割が「達成」及び「順調」と全体としては非常にいい数字であり、特に文化芸術の面では躍動感がでてきているのではないかと。

アドプトプログラムについては、参加企業等に対してインセンティブを与えているが、他の事業についても所管部局で何らかの工夫をすれば事業の進捗がよく飛躍的に進むのではないかと。

行動計画の指標として、事業によっては、財政的(コスト・ベネフィット)な考えを取り入れた検証をするべきではないかと。

政策評価を専門に行う知事直属のチームを将来的には設置するべきではないかと。

予想より民間からのニーズが少ないなど、第三者の需要等により影響を受ける事業については、事業の縮小、廃止又は目標値の変更とかの見直しが必要ではないかと。

評価部会の委員で、数値目標の質や内容を理解し、判断することは困難であると思う。民間のシンクタンクのような第三者機関に評価を委託し、その評価をこの部会で再評価してはどうか。

評価方法のあり方については、コスト・ベネフィットなど数値分析によって行う方法と、この評価部会のように実用性を議論する2つの方法がある。「しゃべり場とくしま」に2回程参加したが、実際に地域の声を聞いて、実用的に評価する方法も効果的ではないかと思う。

進化するオンリーワン行動計画のPR冊子について、「～しています。」「～しました。」の報告書的な表現ばかりでなく、県民と双方向となるような紙面づくりを工夫してほしい。

耐震改修事業やゴミ処理関係事業などについては、集中的に予算をつける「モデル事業」を実施し、その効果について、広くマスコミに取り上げてもらうなど、ピンポイント的な予算措置を行い、県民にPRすべきではないかと。

(2) 個々の施策、事業の進ちょく状況について

「オープンとくしま」の実現

評価に当たっては、NPO法人の設立数などの数字の達成度だけでなく、質の面、中身が問題である。例えば、NPO法人は財政的な基盤が脆弱であり県からの委託事業などによる財政的な支援が必要ではないか。

NPO活動と行政との協働事業について、「協働」の意味について、NPOと行政が互いに理解することが重要であるが、現状では、行政の「協働」に対する意識を変えていかないと目標達成は困難と思う。

財政健全化関係の指標については、目標数値として設定されていないが、非常に重要なことであり、目標数値として設定するべきではないか。

「経済再生とくしま」の実現

工業技術センターの技術力を徳島発の産業や雇用の創出に結びつくようPRに努めてほしい。

県内の中山間地域の活性化の観点から、県内の都市部から中山間地域へ移転したベンチャー企業への支援策を考えてはどうか。

とくしまブランド戦略については、これまでにない消費者に対してもインパクトを与えている事業であると思うが、農業は干ばつや大雨など自然の影響を大きく受けるものでもあり、3年間という短期間ではなく、長期的な視野にたった支援を行ってほしい。

「安全・安心とくしま」の実現

南海地震対策について、学校施設の耐震化率がワーストワンと聞いている。住宅耐震化の改修費用は数十万円かかるが、利子補給などの助成金は数万円と少額である。高齢者には介護保険の費用負担増などがあり、耐震改修による費用は大きな負担となるため、負担軽減の支援策について検討してほしい。また、制度の周知を積極的に行ってほしい。

「いやしの国とくしま」の実現

中山間地域の専門教員が全員配置されていない中学校において、専門教員の追加配置を行いきめ細かな教育を進めるべきではないか。

競技力向上対策として中学レベルまでは、アメリカのように競技種目によるシーズン制を設けてはどうか、また、高等学校の指導者を対象に1年間程度の海外派遣研修を実施してはどうか。

「ユニバーサルとくしま」の実現

男女共同参画関係の目標数値の達成状況については順調であると思うが、関係する事業に男性の参加が非常に少ないので、今後は男性が参加しやすい講座の開設など工夫した事業展開を進めてほしい。

障害者交流プラザなどの施設を見学したが、NPOを代表する立場として、県立子育て支援センターの充実が図られるよう活動していく。

「スキップ」を利用して社会参加ができるように子育てをしながら、さらに、障害者交流プラザや男女共同参画センターを利用して社会に戻る、仕事に戻る、地域とつながるような講座の企画などの活動を展開していきたい。

人にやさしいまちづくり関係で障害者施設を見学したが、徳島ではいまだに託児室やベビーキープのないトイレが多く、あったとしても、案内表示がなく不便な状況にある。きめ細かな人にやさしい施設のあり方について、いつも提言していきたい。

子育て支援として、託児デー・子育て応援デーを設けるなど、子育て中の女性に対する様々な支援を行い少子化対策を進めていく必要があるのではないかと。

「にぎわいとくしま」の実現

道路工事等において「構造図や完成年度など」立て看板等により、地元住民や付近を通行する人々へ広報し、事業について理解していただくことが必要ではないか。また、公共施設についても同じであり、新設、既設を問わずPRをしていくべきではないか。

道路工事現場の視察で、道路は完成まで時間がかかるものであるが、万人の資産として重要であると感じた。